6月2日　講談「日向御前　国姫物語」の主催者挨拶

皆様、ただ今、市川市の市会議員の岩井先生からご紹介いただきました、肥前有馬家28代当主の有馬康陽でございます。

先ずは、この公演をプロデュースしてくださった岩井先生に感謝の拍手をしたいと思います。皆様、ご一緒にお願いします。ぱちぱち

また、お忙しい中を応援に来てくださった田中市長にも、お礼申し上げたいと思います。

皆様、プログラムの第一部では、一龍齋貞弥さんの「」と、藤間京之介さんの「元禄花見踊り」、とても素晴らしかったですね。

丸岡城は桜の名所なので、桜に因んだ演目を選んで頂いたとのことでした。

二部では、さんの独唱、「手児奈」と「島原地方の子守歌」を、また「国姫物語」を講談と日舞のコラボで披露していただきます。楽しみにしております。

10月から国姫を顕彰して、福井県越前丸岡に国姫のモニュメントを作るクラウドファンディングを始めますが、本日の公演がファンディングの成功に向け、力強い内容になると大いに期待しております。

さて、皆様、有馬家28代と申し上げますと、多くの方は、中山競馬の有馬記念と関係すると思われるようで、有馬記念の勝ち馬を教えてくださいなどと言われます。

残念ながら、有馬記念の有馬家は有馬温泉の出身で、豊臣秀吉に引き上げられた福岡・久留米藩の大名です。

中山競馬は関係ないとはいえ、私は、茂原市の生まれです。御前国姫は、大多喜城の生まれです。国姫の祖父の本多忠勝の城で生まれました。

ここにも、講談「国姫物語」の初披露がこの市川市で行われる意味があるのです。千葉県そして市川市は、奈良の時代から、国府あり、手児奈の物語あり、平の将門、源の頼朝、日蓮、里見八犬伝、など、歴史と伝統文化の宝庫です。

講談「国姫物語」でお分かりになるように、有馬家は肥前、長崎県島原の出身です。鎌倉時代からキリシタン大名有馬晴信の時代まで、400年の長きにわたり、島原半島の地頭、城持ち大名でおりました。豊臣時代までを半分として、現在まで、800年の歴史を持っております。

時代は明治に移ります。政府は藩の藩札を明治時代に通用する太政官札に交換できると決めました。しかし、このことを知らない藩も多くありました。　有馬家の国家老もこのことを知らず、この藩札を燃やしてしまったのです。　もし、燃やしていなければ、現在では数十億円の財産です。　このことから、残念ながら有馬宗家には財産を期待できませんでした。ですから、先代からなんと6等親も離れている私が、28代を継ぐことは、私の運命としか言いようがありません。

800年の歴史を持つ有馬家は、島原から延岡に移封、さらに丸岡へ移りました。江戸時代を含む400年は、延岡や丸岡の地元に支えられてきた家系です。

　当主として、これらの地域に恩返しをすること、そして有馬家の子孫への貢献を、４００年先を目指して行うことが私の使命と考えております。

先ずは、「有馬家の歴史と、有馬家が丸岡城の城主となる礎を作った国姫を広く知ってもらう活動」をスタートしました。

これまでに国姫漫画を作成しましたが、昨年末に「講談」と出会い、講談で「日向御前　国姫」を福井県丸岡町の皆さんをはじめ、全国の方々にも知っていただきたいと考えた次第です。

そして,本日が「御前 国姫」の初披露となりました.

私と財団にとって、朗報があります。日本の伝統文化を守っていこうと、戦前の華族会館、戦後は生まれ変わって霞会館となりました。この4月に、私は会員の700名のひとりになりました。新たな人脈作りが始まります。

以上、ご来場の皆様、また、出演者の方々へ感謝の念をもって、私の挨拶を終わります。

一般財団法人　丸岡有馬財団

代表理事

有馬康陽